

飯能市の観光と地域経済

地域経済を支えるエコツアー

飯能市の市域面積は193.18平方キロメートルで、2005年（平成17年）に旧名栗村と合併して、県内で3番目の広さとなった。その市域の大部分が『埼玉県立奥武蔵自然公園』に指定されているだけに、当市を訪れる観光客は圧倒的にハイキング客が多い。JRと西武鉄道が乗り入れている東飯能駅や、西武池袋線の飯能駅でふらりと降り立ち、近くの山でそのままハイキングできるのが最大の魅力。もちろん、装備を整えた本格的な山歩きも楽しむこともでき、当市にとってガイドの案内で市内の山々を巡るエコツアーは、地域経済を支える重要な観光資源となっている。

代表的な山を紹介すると、市の西側に位置する『天覧山』は、恰好なハイキングコースの入り口。飯能駅から歩いて25分、東飯能駅からでも30分で登山口の入り口に辿りつく。標高195メートルとそれほど高い山ではないため、20分程度で山頂まで登れる。昔は、山麓にある能仁寺という寺に愛宕権現が祀られていたことから、愛宕山と呼ばれていた。その後、徳川5代将軍綱吉の時代に、生母の桂昌院が十六羅漢の石仏を奉納したことで羅漢山に変わり、明治天皇が近衛兵の春季小演習



山頂に向かう天覧山のハイキングコース



名栗地域にある棒ノ嶺には、週末を中心に登山客の姿が絶えない

を山頂から天覧されたことで、現在の呼び名になっている。

山頂からは市街地を一望できるほか、奥武蔵や奥多摩の山々と、遠くは富士山まで望むことができ、都心の超高層ビル群や東京スカイツリーも見渡せる。史跡や文化財も多く点在し、春のツツジから秋の紅葉まで1年を通して見るものが多く、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に人気があり、天覧山を登って降りるだけでも十分に堪能できる。

ちょっとした山歩きの装備を整えて、登るのに人気のあるのが名栗地域にある『棒ノ嶺（棒ノ折山）』。東京都境にあり、標高は969メートルと少し高く、こちらも奥武蔵の山々や秩父連峰が一望でき、初夏が一番のお勧めという。飯能駅から登山口まではバスで40分ほど、登山口から頂上までは大人の足で2時間はかかる。地図やコンパスが必需品で、週末を中心に朝一番のバスで訪れた家族連れで、登山やトレッキングを楽しむ姿が絶えない。

天覧山や棒ノ嶺以外にも本格的な登山やキャンプ、山歩きに適した山は多く、市商工観光課によると、「市内に6つの鉄道駅があり、駅を発着地にし、起点と終点が異なる駅を結んで歩く姿が目立つ」と話す。ハイカーらに

としては、鉄道駅が多いのも魅力の一つになっているようで、“駅からハイキング”が文字通り実現できる観光地として人気が高い。

地域と住民の参加で観光案内

こうした山歩き観光で、最大の特徴が市と市民団体や公益団体などが連携して進めるエコツーリズムの企画で、2005年（平成17年）8月に初めてエコツアーが実施された。環境省が主催する第4回エコツーリズム大賞の『大賞』を受賞した事業で、市役所内に『飯能市エコツーリズム推進室』を設置して、ツアー企画を定期的に受け付けている。

地域の自然・文化・暮らしを楽しみながら体験し、その大切さを伝えるエコツーリズムの取り組みコンセプトが、『地域の自然や文化を地域の人が地域の言葉で案内する』ことを基本としていて、ガイドはすべて地元住民。ツアーの企画内容は季節ごとに更新され、例えば、今夏の企画では『プレリバ!』や『駿大の里山・竹とり物語』、あるいは『夕涼み・まちなかぶらり旅』、『古民家お手入れエコツアー』など多彩に用意された。『プレリバ!』は、市民活動団体の『テルヴェ』が企画した緑の川をハイキングするもので、清流で知られる入間川の上流域を一日かけて過ごす。時には川の流にダイブして、泳ぐ魚や水辺の生物を探し、生態系の多様性を学ぶという趣旨で実施された。

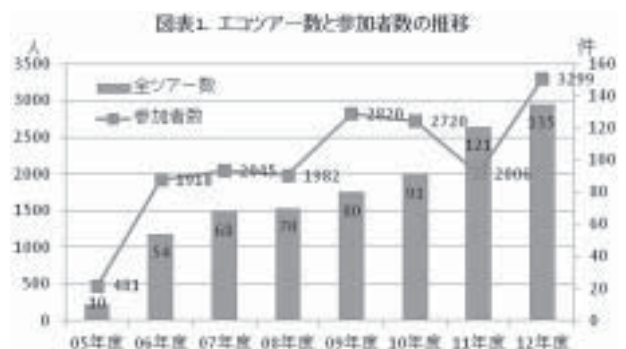
『駿大の里山・竹とり物語』は、駿河台大学の企画で、古くから素材や食材として親しまれてきた『竹』をテーマに、全国的に増加している放置された竹林の問題を考えるツアー。伐採した竹で箸や器を作り、流しそうめんを舌鼓を打ちながら、環境問題や竹の有効利用を楽しみながら学んでいる。飯能市エコ

ツーリズム活動市民の会が実施した『夕涼み・まちなかぶらり旅』は、飯能河原の花火大会を水天宮例祭に合わせて市内を散策。昔からまちなかに息づいてきた歴史や生活、民話の地を訪ね歩いた。

同じように歴史をテーマにしたのが『古民家お手入れエコツアー』で、埼玉県建築士事務所協会いるま西支部が企画している。明治時代に建てられた古民家を参加者とともに手入れをして、貴重な文化遺産の保存を体感しながら、山里に佇む古民家の風情を楽しんだ。これらのエコツアーは、ほとんどが日時限定の1日企画で、今夏は7月から8月にかけて16種類が実施され、現在は秋シーズンのエコツアーが用意されている。

ツアー企画は飯能市エコツーリズム推進室で季節ごとに受け付けているが、同推進室によると「2012年度に135件のエコツアーが企画され、このうち天候の影響などで中止・延期されたものを除き129件のツアーが実施され、参加者も3,299人に上った」と言う。前年度実績に比べ1,293人の大幅増加で、企画されたツアーが増えたことも影響したようだが、団体向けツアーで小学校の遠足を受け入れたことも、参加者増につながったとしている。今後は、ツアーの内容や適正価格の設定、情報発信などを含めて見直しを進めながら、より良いエコツアーを実施していく計画でいる。

(図表1 参照)



アニメが山歩きの後押し

最近では、こうした山歩きや市内散策への大きな追い風が当市にも吹き出した。日本のアニメ文化を象徴するように『月刊コミックアース☆スター』に『ヤマノススメ』という漫画が連載中で、テレビでも今年1～3月まで放映されたことから、さらに山^{やま}風^{おろし}となってエコツーリズムを盛り上げている。このアニメは、人気イラストレーターのしろが描いている作品で、主人公の女子高生たちの登山をテーマにした物語だが、舞台がなんと飯能市。天覧山や飯能銀座商店街、飯能河原など親しみやすいスポットが登場し、全国に当市の魅力を十分にアピールしている。

これを当市の情報発信ツールとして使わない手はないとして、『アニメツーリズム実行委員会』を組織し、作成したのが舞台探訪マップ。原作者も協力してモデルの主人公をマップに描き、3～4時間程度で市内を巡るルートを紹介している。マップには、漫画に登場したスポットが多く、アニメファンら訪れた観光客に喜ばれていると言う。市では、マップだけでなく地元産材の西川材で作った木製のコースターやストラップ、キーホルダーなどの関連グッズも販売して、地元での消費活動を支えている。今後も、漫画の世界で新たな観光名所となることも期待されることから、原作者と連携しながら“聖地”として定着させたい考えだ。

その他に、市内全域を網羅した奥武蔵ハイキングガイドも作っており、商工観光課によると、「登山やハイキングを楽しんでもらうために地図とともにハイキングコースを紹介している」と話す。コースには『奥武蔵の古刹を訪ねるみち』や『山峡に歴史を訪ねるコース』、あるいは『天狗岩から武川岳コース』、

『義経伝説と滝のあるみち』など、マップには18コースを掲載。訪れる観光客の健脚に合わせて、短い距離で約2.4キロから、長い距離では22キロまで幅広く用意し、名所・史跡や食べ物、特産品まで紹介して、訪れた観光客に無料で配布している。

バーベキューで賑わう河原

当市は山々に恵まれているため、登山やハイキングに目が行きがちだが、同じ自然を体験し満喫できるスポットとして入間川や高麗川、成木川の水辺も見逃せない。宮沢湖や名栗湖もあり、釣りや川遊びができるので山とは違った楽しみが味わえる。特に、観光レクリエーションで、人気のあるのが河原でのバーベキュー。飯能河原をはじめ吾妻峡や弁天河原には、シーズンを問わず大勢の家族連れらで賑わいを見せる。

バーベキューと言うと、最近は禁止する条例が全国の自治体に広がっているが、当市では禁止するどころか観光資源として活用し、地元経済の活性化に役立てている。背景には、県が進める『川の国埼玉』の実現に賛同しているため、市として安らぎと賑わいのある水辺空間の創出に努めている。この活動を側



観光資源として飯能河原にバーベキュー場を開設。
夏には大勢の人で賑わいをみせる

面から支援するかのようになり、2011年4月には国の規制緩和で、民間事業者が河川敷地を利用できるようになった。当市はいち早くこの規制緩和を活用して、入間川上流の弁天河原河川広場での『河川敷地占用許可準則に基づく都市・地域再生等利用区域』の指定を県から受け、同年の7月にはバーベキュー場を開設している。

河川敷の占用許可は県内初指定で、最大の特徴は運営主体が地元の河又自治会であることだ。場内には建物も建築でき、駐車場も整備され、利用料などの収益金は自治会に入る。その収益金で県への河川敷占用の利用料金を支払い、運営費なども賄っているが、何よりも雇用が生まれ地元消費にもつながっている。それだけに今後は、夏の期間だけでなく冬もオープンできないか、あるいは近隣の特産物の販売出店などの可能性を探りながら、市として他の河川敷でも開設していく方針だ。ちなみに、このバーベキュー場は飯能の市街地から車で約30分の距離にあり、夏のシーズンだけの開設で、午前8時から午後6時まで利用できる。利用料金は駐車場込み1台当たり1,500円で、約140台の収容。

イベント観光も盛りだくさん

山や河川、湖の観光資源に加え、祭りなどのイベントも一年を通して多彩に行われている。代表的なものが『飯能まつり』で、1971年（昭和46年）から始まった市内最大のイベントで、11月の第1土・日曜日に行われているが、昨年は2日間で15万5,000人の人出で賑わった。市内11カ町の底抜け屋台と山車が市内を練り歩き、最大のハイライトは中心部で行われる本祭りの山車引き合わせ。おかめや、ひょっとこ、天狐、獅子に加え飯能独特



毎年5月に行われている「飯能新緑ツデーマーチ」

の外道が、お囃子に合わせて踊る見所の多い祭りだ。

5月に行われる『飯能新緑ツデーマーチ』も毎年大勢の参加者があり、11回目の今年は5月25～26日に実施され、市内外から約1万4,000人が参加。市役所を出発点に5キロから30キロまでの5コースがあり、宮沢湖や天覧山、^{どうのすやま}多峯主山、^{みなみこま}南高麗などの観光スポットを巡り歩いた。参加者の中には関東近辺だけでなく、遠く北海道や九州から泊りがけで来た人もみられ、全国的に注目されるイベントとして定着しつつある。

このほか、県の無形民俗文化財に指定され、真剣を手に舞う『下名栗諏訪神社の獅子舞』も有名で、『名栗ふるさとまつり』や『吾野宿まつり』、『飯能夏まつり』などにも大勢の人出で毎年賑わっている。170年以上の伝統文化を伝える獅子舞は、高度な技と派手に踊る勇壮さが注目されていて、本物の刀を使ったスピード感あふれる舞が見もの。秋祭りとして定着している『名栗ふるさとまつり』は、特産品や飲食物の販売、舞踊などの催しが盛りだくさん。また、古い宿場町の雰囲気を残す『吾野宿まつり』は、地元住民による模擬店や踊りが行われ、『飯能夏まつり』は飯能八坂神社の例大祭に合わせて実施される夏の風物詩。9台の底抜け屋台や神輿が祇園囃子

とともに繰り出し、市内を練り歩くことで知られている。

県西部地域で初のB級グルメ

観光は見るだけでなく、その土地の特産品を買い求めたり、食べたりするのも目的の一つ。市内での飲食は消費活動にも貢献し、地域経済を活性化させることから、ご当地グルメの充実にも力を注いでいる。飯能の食文化を代表する逸品と言え、『味噌付けまんじゅう』や『飯能すいとん』、『武州飯能うどん』などが有名だ。『味噌付けまんじゅう』は、こんがり焼いた餡入りの酒饅頭に、秘伝の味噌だれを付けたもの。江戸に西川材を運んだ筏師^{いかだし}たちの弁当として、食べられていたのが起源と言われている。

地域の伝統食である水団^{すいとん}を現代風にアレンジしたのが『飯能すいとん』で、当市の新しいご当地グルメ。山の幸、里の幸をふんだんに使い、丸い団子の中身は食べてからのお楽しみ、と謎めている。小麦栽培が盛んな地域ではうどんが名物になるが、ご多分にも

れず飯能でも昔からよく食べられていたのが『武州飯能うどん』。市内には自家製のうどん屋が多くあり、食べ比べには事欠かない。

こうしたご当地グルメをアピールできるイベントとして、最も定着しているのがB級グルメ大会だが、埼玉県が主催する過去の大会で『飯能すいとん』は準優勝、『飯能味噌付けまんじゅう』は4位に輝いた実績がある。その埼玉県主催の『埼玉B級ご当地グルメ王決定戦』が10月13日に市役所本庁舎駐車場と、隣接する富士見小学校の校庭を会場にして開かれた。今回で11回目の開催で、県西部地域では初めて行われ、県内から40のグルメが出品された。

当日は晴天にも恵まれたことから、予想を上回る約9万5,000人の人出で賑わい、人気のある名物グルメには長い行列ができたほど。来場者による投票の結果、飯能市が誇る『飯能すいとん』が出場6回目で初優勝し念願を叶え、『飯能味噌付けまんじゅう』も堂々の準優勝に輝き、揃い踏みとなった。

グルメだけでなく、工芸品や農産物など観光帰りのお土産品も多数ある。中でも人気

飯能市の主な観光資源

▶ **高山不動尊(高貴山常楽院)**…654年(白雉5年)の開山。

1949年(昭和24年)に国指定重要文化財になった平安朝初期の木彫仏像、軍荼利明王(像高2.3メートル)と、1958年(昭和33年)に県指定絵画になった不動明王画像(絹本縦2.8メートル、幅1.2メートルに不動三尊が描かれている)がある。また、不動堂の入り口には、1947年(昭和22年)に県指定天然記念物になった目通り10メートル、根回り12メートル、樹高37メートル、樹齢800年の大銀杏がある。



▶ **長光寺**…1366年(貞治5年)開創と伝えられ、江戸幕府から寺領15石の御朱印状を受領した伝統を持っている。惣門は桁行き、梁間の四脚門で安土桃山時代のもので1958年(昭和33年)に県指定建造物になった。その他、国指定工芸品の雲板など数多くの文化財がある。

▶ **福德寺阿弥陀堂**…1212年(建暦2年)に草創された堂で、鎌倉時代末期の和様建築として、1949年(昭和24年)に国の指定重要文化財(建造物)になった。阿弥陀三尊立像があり、鎌倉時代の鉄造仏として、1954年(昭和29年)に県指定有形文化財になっている。



▶ **智銀寺**…877~885年(元慶から仁和)に創建されたと言われている。徳川家光から寺領15石を得て、中山氏代々の菩提寺として栄えた。この寺には、徳川家康の子、頼房の養育にあたった中山信吉の墓(県指定史跡)や、中山信吉木碑(県指定書跡)がある。



あるのが『飯能焼』で、天保年間（1830～1843年）の時代から市内の真能寺村原（現在の八幡町）で焼かれていた。現代陶工が創作する渋い味わいのある皿や徳利、マグカップなどが人気で、市内に点在する工房を訪ね歩くのも観光の魅力だ。また、西川材で作った木工細工もお土産に喜ばれ、農産品を含めた観光土産は観光案内所に併設している『夢馬（むーま）』で買い求めることができる。

入込観光客280万人を目標に

1年を通して観光客が絶えない飯能市。年間、どのくらいの入込観光客数があるのかというと、ここ数年は増加基調にある。2006年度（平成18年度）に約230万人だった入込観光客数は2010年度には約268万人に増加し、4年間で約15%も増えている。ただ、2011年度からデータ収集の基準が変更され、同年度に下方修正されたが、その後も増加基調は衰えないでいる（図表2参照）。山や川から名所・史跡まで、幅広い観光資源を持つだけに、今後も入込観光客数が増加するものとみられ



るが、当市は2015年度には約280万人の年間目標を立てている。その目標を達成させるためには、いくつかの課題もある。

市では、2012年1月に“観光立市”に向けて、今後の方向性や取り組みなどを示す『飯能市観光ビジョン』を作成した。その中で、現状と問題点について、観光資源の多様さに関しては、他市町村と比べても遜色はないと総括。ただ、その多様さが逆に当市のイメージを見えにくくしている側面があり、近年では観光客数において近隣市との間に格差が生じている、としている。例えば、秩父市の羊山公園の芝桜、日高市の巾着田の彼岸花、川

▶**能仁寺**…創建は変転興亡の激しかった戦国時代。飯能地方の領主で中山・黒田両家の菩提寺となり栄華を極めた。1868年（慶応4年・明治元年）の飯能合戦では本陣となり、宝物や古文書の多くを焼失してしまった。境内には中山家勝、家範の墓と黒田家累代の墓がある。また、本堂北庭には1973年（昭和48年）に市指定文化財となった名園「池泉鑑賞式蓬萊庭園」があり、安土桃山時代（1573年～1603年）の造園と推定されている。



▶**竹寺(八王寺)**…竹林に囲まれた境内には牛頭天王社があり、本尊牛頭天王と八王子を祀っている。また、本地仏は薬師如来を拝する神仏習合の姿を今に残す東日本唯一の遺構。樹齢400年の高野槇は市指定天然記念物であり、精進料理でも有名な寺。



▶**子ノ権現(天龍寺)**…通称、子ノ権現と言われ、火災と腰から下の病気に霊験があるとして信仰されている。拝殿には、鉄わらじや子どもの草履などが奉納されている。1938年（昭和13年）に県指定天然記念物となった樹齢800年の二本杉もある。



▶**石灰焼場跡**…この地域の石灰事業は、慶長年間（1596～1615年）に木崎、師岡の二家によって始められたと言われている。石灰は、1606年（慶長11年）に江戸城の修築に当って送られたのを始めに、幕府による主な工事には、ほとんどこの地から送られた。1932年（昭和7年）に県指定史跡となっている。

越市の蔵造りなどは各市で観光の中心、核として積極的に整備し、PRに努めながら多くの観光客を集めて、地域の活性化を進めていると指摘。

当市においては市民や企業、団体、行政などが様々な活動を行っているものの、統一感や連携態勢が希薄で、観光地としてのイメージがもう一つ曖昧となっていると、現状を分析した。さらに、観光地としての大きな可能性を秘めながらも、その豊富な観光資源が活かされていないのが当市の課題だとし、そのために情報発信力が弱く、観光客数の伸び悩みを招き、観光振興が地域経済への波及効果を弱めているとしている。

こうした現状分析のもと、観光ビジョンではまず『歩いて楽しむ観光』を基本コンセプトに設定。“飯能らしい”観光施策の推進を図りながら、情報発信を強化して『体験・交流・回遊・リピート型』の観光振興を図るとしている。同ビジョンが作成されてから、既に1年以上が経過しているが、示された各種の施策は着実に実施され、当市が抱える観光の課題が克服されてきた。

例えば、基本施策で提示された『歩いて楽しむ観光資源の整備と創造』では、既存のハイキングコースや散策コースを整備し、案内板や道標などの設置している。このサインシステムは日本語の表示に加え英語や中国語、韓国語の4ヶ国語で表示し、外国人観光客の受け入れにも積極的であるとの姿勢を示した。また、観光トイレも各地に設置し、現在は40カ所ほどになったが、今後も継続的に設置していく計画でいる。

新たな飯能ブランド目指し

現状分析で統一感や連携態勢の希薄、という課題にも克服がみられた。その一番の実例がエコツーリズム企画の充実で、市民ボランティアだけでなく企業や大学などがシーズンごとに自主的に集客、実施していることが何よりの結果だろう。さらに、市内の8つの地域でまちづくり推進委員会が組織され、ウォーキングコースの整備や地域のマップ作り、景観の環境整備を独自に実施して観光客を迎え入れている。また、市の玄関口でもある飯

▶**法光寺岩殿観音窟石龕**…曹洞宗の寺で、本尊として南北朝時代に造られた地蔵菩薩坐像(県指定重要文化財)が安置されてる。寺の裏手の石灰山中腹付近にも、県の重要文化財に指定された岩殿観音窟石龕がある。もとは行基菩薩の手彫りによる十一面観音像を安置した霊場と言われていたが、現在は香取秀真氏鑄造の十一面観音像が納められている。貞和2年(1346年)と刻まれたこの石龕の扉と思われる青石板は法光寺に保管されている。



▶**中山家範館跡**…現在は住宅地となっている智観寺の東にあり、空堀が一部残っている。中山家は武蔵七党の一家で、家範は小田原北条家が滅亡した1590年(天正18年)に八王子城で壮烈無比の戦死を遂げた。

▶**名栗川橋**…1924年(大正13年)の竣工で、当時の道路橋としては関東地域で、箱根町にある玉之橋に次ぐスパン長を誇っていた。現在でも小型車は通行可能で、鉄筋コンクリートのアーチ橋として美しさを保っている。



▶**さわらびの湯**…有間渓谷に包まれるようにして建つ「さわらびの湯」は、地元特産の西川材をふんだんに使用し、木の香りとぬくもりをいっぱい堪能できる。



能駅の改札前に、臨時の観光案内を開設し、休祝日には市民ボランティアが市内の見所や交通の案内、トイレの場所など観光客からの問い合わせと相談に乗っている。

こうした基本施策の実施と地域住民や企業などの連携強化などにより、観光ビジョンに示す『歩いて楽しむ観光』の実現に取り組んでいるが、それでもまだ解決しなければならない課題は多い。最大の課題は飯能観光の知名度で、商工観光課も「知ってもらうことが課題」と話すように、情報発信の充実がさらに求められている。そこで、本年度から市役所内にシティープロモーション担当を設置し、飯能としての魅力や存在感を高める活動の展開を始めた。

飯能市と言う地名は、知られているようで知られていないのが現実で、同課が話すように「なかなか漢字を読めないことも確か。埼玉県の中のどの位置にあるのか判然としない現実がある」と。しかし、鉄道車両に『飯能行き』と表示されていることは最大のメリットで、この行き先プレートを広告として最大限活用しない手はない。今年3月には埼玉県内と横

浜市内を結ぶ鉄道の相互乗り入れが始まり、知名度を上げるツールにもなっている。

県外から、特に神奈川県方面からの観光客誘致には追い風の相互乗り入れで、シティープロモーションでは知名度の向上を図りつつ当市の魅力を発信して、リピーターを含めた観光客を誘致し、目標の280万人を実現させる狙いだ。その活動を通して、新たな飯能ブランドを確立させ、市民に誇りを持ってもらうと同時に、定住人口の増加が難しい中で、交流人口による地域の活性化を図っていくことにしている。

「とにかく、多くの観光客に訪れてもらうこと。そのためには行政を越えた取り組みを進め、市民とともにその取り組みをレベルアップさせながら、他市に劣らない観光地として定着させたい」と同課では話し、今以上に観光による地域経済の活性化を図っていくことにしている。



▶ 飯能ひな飾り展(店蔵絹甚)…

商店街をはじめ市内全域から参加者を募り、家々で大切にしまわれていた雛飾りがお披露目される。メイン会場の絹甚は明治時代に建てられた店蔵で、建築当初の様子を今に残し、飯能市の指定文化財となっている。



▶ 下名栗諏訪神社獅子舞…8

月下旬に行われ、五穀豊穡や国家安泰、氏子繁栄、悪魔払いを祈願するものとして伝わっている。クライマックスの「白刃」は、男獅子2頭と2人の太刀遣いが登場し、真剣を使った緊迫

感あふれる勇壮な舞。1987年(昭和62年)に埼玉県無形民俗文化財に指定されている。

▶ 飯能さくらまつり…中央公園で開催される春の恒例行事。期間中はポップスコンサート、歌謡、お囃子、民謡、植木市などが繰り広げられる。夜間にはボンボリが点灯され、夜桜が楽しめる。



▶ 飯能まつり…11月の第1土・日曜に市街地で開催される

飯能市最大の祭り。土曜日の宵まつりでは、底抜け屋台が引き回され、日曜日の本まつりでは市内の11ヶ町から色鮮やかな山車が絢爛豪華に繰り出し、まつりを盛り上げる。

